

材料リサイクル事業者への事業状況調査の結果

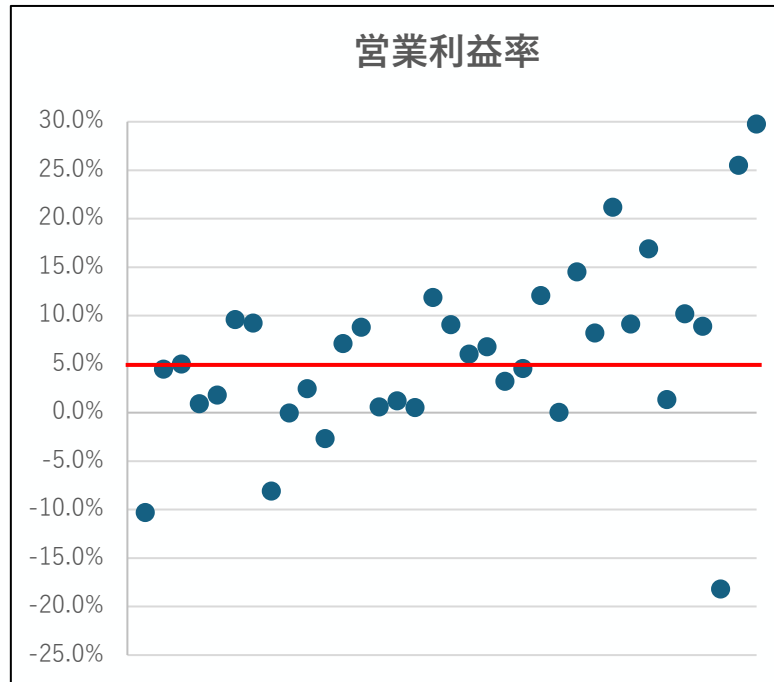
2026年8月31日（月）

材料リサイクル事業者への事業状況調査について

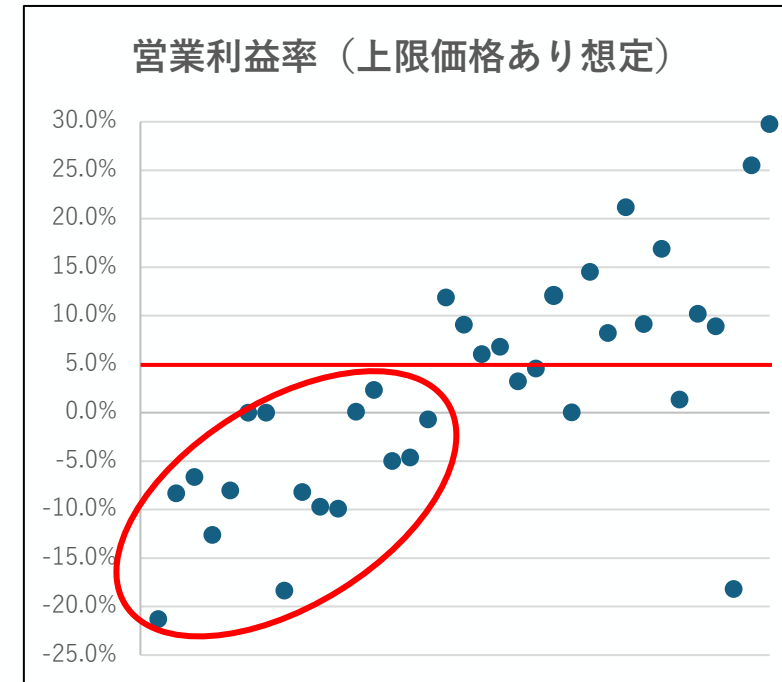
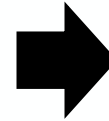
- 入札価格が上昇傾向にある中、特に材料リサイクル事業者については、事業者間で入札価格に大きな幅があり、10社以上が上限価格を上回る事態が生じたことから、適切な上限価格の設定や今後の入札制度の見直しの際の参考とすべく、各社の再商品化事業の収支や高品質化に向けた取組状況について調査を行った。
 - ・調査期間：令和8年5月11～29日
 - ・回答数：34社（容リ協に登録する全ての材料リサイクル事業者）
- 調査項目は、各社の初回の平均的な入札価格（上限価格をオーバーした札も含む）をベースとして、
 - ①支出（詳細な費目ごとの内訳含む）
 - ②再商品化製品（ペレット等）の販売単価・用途
 - ③営業利益
 - ④事業発展に向けた取組内容（高品質化に向けた取組、動静脈連携に向けた取組、設備投資の内容等）
 - ⑤処理プロセスの流れ・設備の内容などを設定。
- 各社の回答内容を取りまとめ、分析したデータは、次ページ以降のとおり。

材料リサイクル事業者の営業利益の状況

- 特に入札価格が高い層の事業者が、一般的な製造業の営業利益率（5%）を下回る事業者が多く、今般の入札並みの上限価格が適用された場合、その差分が営業利益から差し引かれるため、上限オーバーとなる事業者は全て営業利益が5%未満、太宗は0%未満となる。
- 現状の入札環境のままでは、新たに設備投資をして高品質化を目指すことはもとより、既存事業者の稼働率アップや、新規事業者の参入が生まれにくいため、現在のリサイクル事業者の処理能力が逼迫する状況に改善は見込まれない。



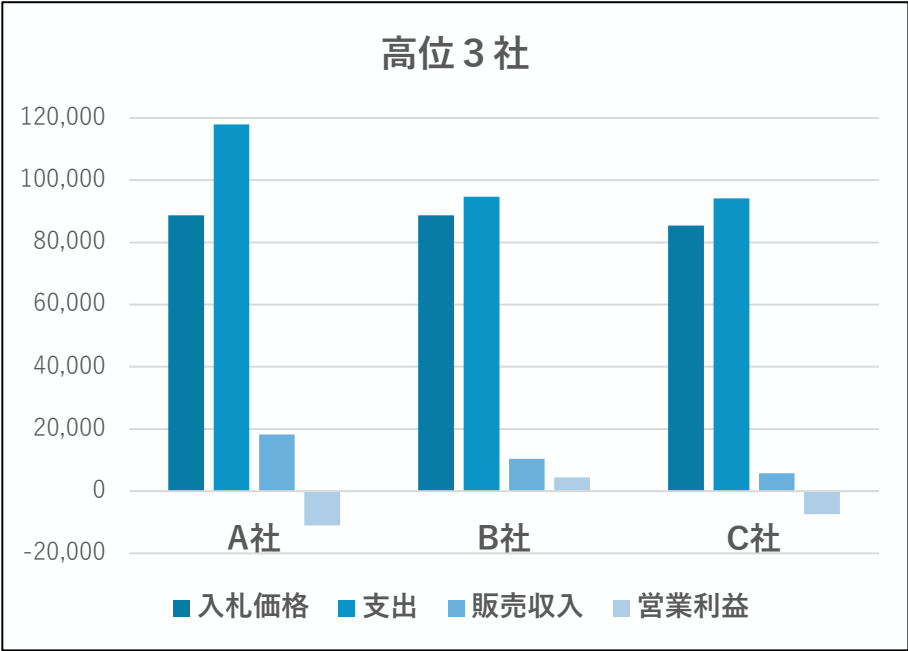
赤線：TKC経営指標における製造業の黒字企業平均の営業利益率4.9%



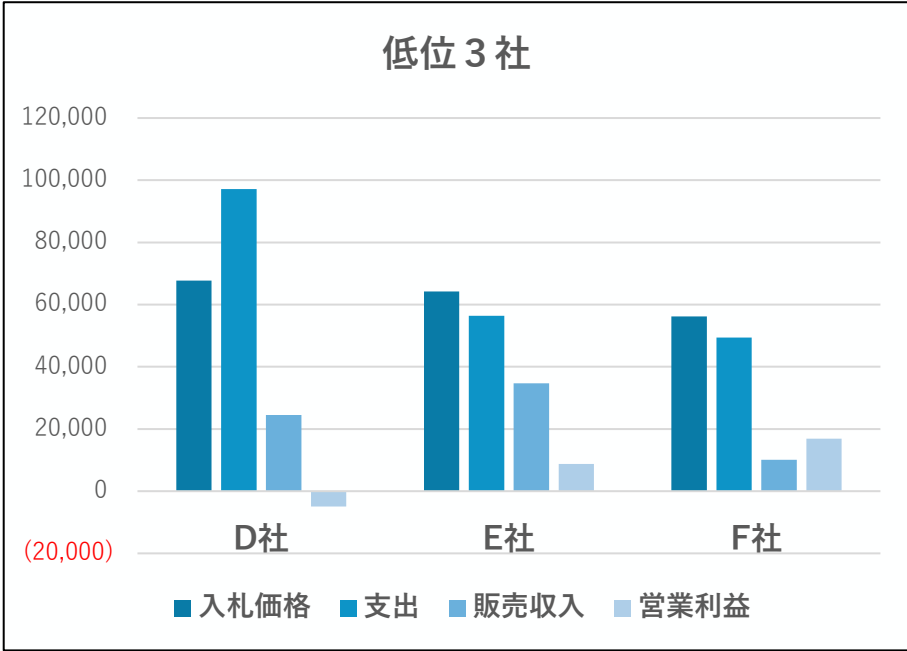
※R8年度入札の上限価格を適用した場合、上限オーバーした入札価格との差分を営業利益から差し引いたケース

材料リサイクル事業者の入札価格高位・低位 3 社の比較

- 自動車産業を始めとする製品メーカーの再生材へのニーズの高まりもあり、入札価格が高めの事業者の多くは、処理能力の拡大や高品質化を狙って選別機や洗浄機など様々な設備投資を行っている。
- また、実際に自動車関連企業等とのペレットの分析・協議、PETリサイクラーやケミカル事業者と連携した高度利用の検討・実施を行う事業者も出始めている。
- 再生プラ市場が成熟していないため、現段階では、コストをかけて高品質なものを作っても必ずしも高く売れる市場環境がない。



主要設備数		取組状況
A社	17	・自動車関連企業とペレットの分析や協議を実施
B社	80	・他事業者と連携し、PETやPSを回収・高品質化
C社	20	・残渣を油化して石油精製に混ぜる検討を実施 ・ラミネートのアルミ除去や脱墨装置の導入を検討



主要設備数		取組状況
D社	9	
E社	9	・選別設備の更新・増設 ・高品質化に向けた情報収集に努めている
F社	7	